

日本の国連加盟 70 周年；配布資料

東京六稜倶楽部講演 7 月 15 日

前国連職員 高木善幸

1. 国連はいつできて、日本の加盟は？
 - 1952 年の対日平和条約で日本の国連加盟申請
 - ソ連が拒否権発動
 - 1956 年 10 月、日ソ共同宣言
 - 1956 年 12 月、やっと加盟（80 番目）
2. 国連はどこで、何してる？リーダーは誰？
 - NY、寿府、ウィーン、ナイロビ等
 - 「平和追求よりむしろ戦争地獄の回避」で始め
 - 米国中心に国際秩序管理と力の均衡
3. 国連加盟の損得、日本の不満は？
 - 国際社会への復帰（友達は増えたか？）
 - 平和主義・自由貿易を後押し
 - 安保理で非常任理事国、拒否権無し
 - 国連肥大化・重複所掌・財政改革停滞
 - 分担金多い割に、幹部に日本人少ない
4. 「国連は役立たず」？崩れる国際秩序
 - 国連役に立っているが
 - 役立たずの批判も有り；安保理の問題点（拒否権行使過去 20 年で 60 回以上）
 - 国連をバイパスして軍事・経済制裁が増す
 - 国連は政治力のみで仲裁・調停は困難に
 - 公衆衛生などの専門分野でも NGO や民間・大企業の協力に依存傾向が増す
 - 組織の肥大化や決定プロセスの複雑化
 - 米国の戦略転換と国連支援の部分停止
5. これからどうなる？日本はどうすれば？
 - 国連の改革 UN80 イニシアチブ（安保理改革案、財政改革と定員削減など）
 - 国連の新事務総長が選出間近
 - 国連はバラバラ縮小になるか、米国と折り合いをつける路線か
 - 代わりになる国際新秩序が生まれる過渡期か
 - 超大国に依存せず、中堅同志国連携が進展するか
 - 日本は、安保理改革を含む国連改革・機能強化、日本らしい人権外交や女性・平和・安全保障を積極的に推進するとの立場。